

2022. 8. 14 (日) 使徒3:11~16

3:11 この人がペテロとヨハネにつきまとっているうちに、非常に驚いた人々がみな、「ソロモンの回廊」と呼ばれる場所にいた彼らのところに、一斉に駆け寄って来た。

3:12 これを見たペテロは、人々に向かって言った。「イスラエルの皆さん、どうしてこのことに驚いているのですか。どうして、私たちが自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。

3:13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたはこの方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その前でこの方を拒みました。

3:14 あなたがたは、この聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、

3:15 いのちの君を殺したのです。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。

3:16 このイエスの名が、その名を信じる信仰のゆえに、あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです。

<説教>

エルサレムの神殿での出来事の続きです。〈この人〉(11)とは、生まれつき足の不自由な人で、神殿に入る人々から施しを求めするために毎日「美しの門」に置いてもらっていた人(2)でした。その人に向かってペテロが「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」と言って彼の右手を取って立たせたのでした。するとたちまち彼の足とくるぶしが強くなり、躍り上がって立ち、歩き出しました。歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を讃美しつつペテロとヨハネと一緒に神殿に入って行きました(6-8)。このように、生まれつき足の不自由だった人を癒やし、肉体の不自由から自由に解放しただけでなく、たましいも自由にし、解放して、喜びと感謝をもって神を讃美するように変えてくださったのは、よみがえりの生ける主イエス・キリストでした。ペテロ(とヨハネ)はそのようにして、今も生きておられ、力強く働いておられる主イエス・キリストをこの人に証ししました。そして周りの人々もこの歩きながら神を賛美している人があの美の門で施しを求めて座っていた人だと分かると、彼の身に起こったことに、ものも言えないほど驚いたのでした(9-10)。

さて〈この人がペテロとヨハネにつきまとっているうちに〉(11)とあります。〈つきまとう〉とは、くっついて離れないということで、それからずっと〈二人と一緒に〉(8)いたということです。二人は〈祈りの時間〉に神殿に行った(1)のでしたから、この人も二人と一緒に神に祈りを献げ、神を礼拝したのでしょう。イエス・キリストによって体もたましいも救われたこの人は、使徒たちにくっついて離れず、一緒に喜びと感謝をもって神を賛美し、神に祈り、神を礼拝する者へと変えられました。ペテロとヨハネとこの人は祈りを終えて今度は美しの門を出て神殿の〈ソロモンの回廊〉と呼ばれる場所に来ました。「ソロモンの回廊」はイエスがかつて神殿の中でユダヤ人たちから論争を挑まれ、彼らに説教し、彼らの罪を指摘なさった場所でした(ヨハネ 10:23-39)。ペテロもまたそこ

に〈一斉に駆け寄って来た〉〈非常に驚いた人々〉ユダヤ人たちに説教をすることになりました。ペテロがそこまで見通してこの人を立たせたかどうかは分かりません。しかし神が「ソロモンの回廊」という説教の場所を備え、〈この人〉を用いてそこに人々を集めてくださったことは確かです。

もちろんそんなことは知らない人々の驚きの目はまずは「歩けるようになったこの人」に注がれ、次には「この人を歩けるようにしたペテロとヨハネ」に注がれていました。つまり、〈イスラエルの皆さん〉(12)の驚きの目と関心はどこまでも人間だけに向いており、イエス・キリストには全く向いていませんでした。いくら彼らが自分たちは唯一真の神を信じている、〈アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの神〉(13)を信じていると誇っていたとしても、〈そのしもべ(別訳：男の子)イエス〉に目を向けず、イエスをキリスト―彼らが待ち望んでいるメシヤ―と認め信じていなかった彼らの神信仰は全く空しいものとなっていたのです。たとえ神、神と言いながら、主よ主よと言っているながら、神殿に神に祈るため、犠牲の動物を捧げるため、献金を捧げるために来ていたとしても、でした。だから、この生まれつき足の不自由な人が癒やされたのを見て知っても、神のみわざだと言って神を崇めることもしない、ましてやイエス・キリストのみわざだと言って〈イエスに栄光〉(13)を帰すことをしない。そうではなく、ペテロとヨハネが〈自分の力や敬虔さによって彼を歩かせた〉(12)と言って(思っ)ペテロとヨハネという人間を見る、人間に関心を集中させるということになっていたのです。そうやって神ではなく人間を崇め賛美もするし、人間を恐れもする。ペテロはそういうユダヤ人たちの不信仰、罪を見抜いていました。イエスを生ける神の子キリストと信じない不信仰、イエスにおいて、イエスによって、イエスを通してお語りになり、みわざを行われた神、〈イエスを死者の中からよみがえらせ)た(15)神を信じようとしない不信仰、罪です。

ペテロが「自分の力や敬虔さによって彼を歩かせたのではない。」と言ったのはもちろん、「よみがえりのイエスの力が彼を歩かせたのだ。」ということです。ペテロは人々の目をキリストであるよみがえりのイエスに向けるようにします。イエスはどんなお方か。それはユダヤ人たちが信じている〈アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち私たちの父祖たちの神〉の〈しもべ(男の子)〉であり、その神によって〈栄光をお与えにな)られたったお方でした(13a)。確かにその〈栄光〉はイエスが地上におられた間は隠されていたとすることができます。それでも、すでにペテロが言ったように、神はナザレ人イエスによってユダヤ人たちの間で力あるわざと不思議とするしを行い、それによってユダヤ人たちにイエスを証しされました(2:22)。そういうお方にあなたがたがどんな態度をとるべきかは明らかだった、ということでしょう。なのに〈あなたがたはこの方を引き渡し)異邦人(ピラト)でさえも無罪と判断して(釈放すると決めた)〈この方を拒みました〉(13)と言います。あなたがたユダヤ人たちが〈律法を持たない人々〉(2:23)と言って軽蔑する異邦人ピラトの方があなたがたユダヤ人たちよりもまともだったと言うのです。

イエスは〈聖なる正しい方)だとペテロは証しします(14)。「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。」(I ペテロ 2:22,23)と証しする通りでした。そんなお方を〈拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、いのちの君を殺したのです。〉(3:14,15)とはっきり言います。そして最後に、そうやってあなたが

たイスラエルの民が殺したイエスだが、そのイエスが神によって〈死者の中からよみがえらせ〉られたお方だ、そうやって〈神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました〉、〈私たちはその証人です〉(15)とペテロは証言しました。こうしてペテロはイスラエルの民が殺し、しかも神がよみがえらせたイエスの栄光を力強く証しました。

このように死に打ち勝ち、今も生きておられる力あるお方イエスが、〈あなたがたが今見て知っているこの人を強くしました〉、このイエスが、〈この人を皆さんの前で、このとおり完全なからだにしたのです〉から、このイエスこそ私たちが信じ、依り頼むべきお方なのだ、とペテロは言っているのです。その意味で〈信仰〉は大事です。信仰がなければ、神に喜ばれることはできません(ヘブル 11:6)。しかし〈その名を信じる信仰〉はどこまでも〈信仰の創始者であり完成者である〉(ヘブル 12:2)〈イエスによって与えられる信仰〉です。ですから〈イエスによって与えられる信仰〉を〈自分の力や敬虔さ〉の産物としないように、またそれを混同しないようにくれぐれも注意しなければなりません。

「イエスを信じている自分に信頼する信仰」ではなく、むしろ「本来イエスを信じられないうちに自分に信仰を与えてくださったイエスに信頼する信仰」とでも言えるでしょう。そのように「自分の信仰」を常に吟味しつつ、確かに「信仰によって」イエス・キリストを信じ、立ち上がり、神を賛美しつつ、イエスを証して歩んで生きたいと願います。